



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

2019年野球殿堂入り表彰式 ～競技者表彰～

館長 庄司 正信



左から 高橋 周平選手、立浪 和義氏、斉藤 惇理事長、権藤 博氏、緒方 孝市監督

競技者表彰で野球殿堂入りをされた立浪 和義さん、権藤 博さんの表彰式を、7月12日(金)に東京ドームで行われたマイナビオールスターゲーム第1戦の試合開始前に行いました。

競技者表彰・プレーヤー表彰で選出された立浪さんは、1987年ドラフト1位でPL学園高校から中日ドラゴンズに入団。現役22年間ドラゴンズ一筋でプレーされ、通算2480安打、171本塁打、1037打点、日本プロ野球記録となる487二塁打を放ち、ベストナイン2度、ゴールデングラブ賞を5度受賞されています。2004年、06年のリーグ優勝、07年の日本一とドラゴンズ2000年代の黄金期を支えた名プレーヤーです。

またエキスパート表彰で選出された権藤さんは、鳥栖高校、ブリヂストンタイヤを経て、1961年に中日ドラゴンズに入団。1年目から大車輪のご活躍をされ、35勝、310奪三振、防御率1.70で投手主要部門のタイトルを獲得し、さらに新人王と沢村賞を受賞されました。連投過多による肩の故障で野手に転向しましたが、現役生活はわずか8年間でした。引退後は指導者としてコーチ・監督を歴任され、1998年には横浜ベイスターズの監督としてチームを38年ぶりのリーグ優勝、日本一に導き、2017年のWBCでは投手コーチを務められました。

セ・リーグ、パ・リーグ両軍の選手・監督・コーチがベンチ前に整列し、場内アナウンスで立浪さん、権藤さんがスクリーン映像の紹介とともに登場されました。始めに、(公財)野球殿堂博物館・斉藤 惇理事長より記念のレリーフのレプリカが各々に贈られ、続いて立浪さんには中日ドラゴンズの後輩、高橋 周平選手から、権藤さんには高校の後輩である広島カープの緒方 孝市監督から花束の贈呈が行われました。

記念撮影に続いての挨拶では、立浪さんより、1年目から使ってくれた星野 仙一監督への感謝の言葉が述べられ、オールスター戦出場選手へ「皆さんは子どもたちのあこがれです。たくさんプレーで夢や感動を与えて下さい」とのエールが送られました。続いて権藤さんより、デビュー戦での長嶋 茂雄さんとの対戦の思い出が語られ、「今日は80歳にして、一世一代の晴れ姿。ファンの皆さんのバックアップに感謝しています」と挨拶されました。そして最後に改めて、満員の客席から受賞されたお二人に対し大きな拍手が送られました。

「野球で自由研究！」

- 期間：～ 8月31日(土)
- 会場：野球殿堂博物館 図書室、イベントホール

野球には、歴史や野球用具、野球場など小学生の自由研究のテーマになるものがたくさんあります。そこで、野球殿堂博物館では、今年も小学生の自由研究をサポートする「野球で自由研究！」を開催中です。

研究テーマとして人気の高い野球用具は、イベントホールにて、実際に手にとって見られるように展示しています。図書室では、調べものをするときに参考となる図書や雑誌をご用意しています。

自由研究を進めていくなかで、わからないことや困ったことがあれば、お気軽にスタッフまでお尋ねください！また、当館スタッフによる「ミニミニ実験コーナー」を、今年も行います。



ミニミニ 実験コーナー

- 開催日：～ 8月25日(日) ※他のイベント等がある日は除く
- 時間：14:00～、15:00～ (各回30分程度)
- 対象：小学生 ■ 場所：野球殿堂博物館 イベントホール
- 内容：14時の回 変化球のひみつ・グラブのひみつ
15時の回 ボールのひみつ・バットのひみつ

「第4回 野球で自由研究！コンテスト」開催決定！

野球をテーマにした小学生の自由研究を対象に、「第4回 野球で自由研究！コンテスト」を開催いたします。

【第4回 野球で自由研究！コンテスト】概要】

- 応募作品：野球に関することを調べた作品。学校に提出したものでもかまいません。
- ※小学生のオリジナルの作品に限ります。
- ※絵のみ、工作のみの作品はご遠慮ください。
- 応募期間：～ 9月30日(月)
(当日の消印または宅配便受付印有効)
- 発表：2019年11月に、当館ホームページ上で受賞作品を発表し、館内で展示いたします。



昨年の表彰式の様子

応募方法など詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

2019年野球殿堂入り特別展

- 会期：～ 9月29日(日)
- 会場：野球殿堂博物館内 野球殿堂ホール



立浪 和義氏、権藤 博氏、脇村 春夫氏の野球殿堂入りを記念して、「2019年野球殿堂入り特別展」を開催中です。三氏ゆかりの資料や写真等を展示し、経歴などをご紹介します。

なお、脇村 春夫氏の表彰式は、8月15日(木)甲子園球場で行う予定です。また、レリーフは、表彰式終了から数日後に展示予定です。

【主な展示資料】

立浪氏・2000安打達成ボール、ゴールデングラブ賞トロフィー等
権藤氏・1961年35勝ウイニングボール、沢村賞トロフィー等
脇村氏・日本高等学校野球連盟功労賞、論文等

殿堂入りの人々を語る(64)

やまのうち いくじ
山内 以九士と云う人 ①

山内 了一 (1985年野球殿堂入り 山内 以九士氏長男)



山内 以九士氏

昨平成30 (2018) 年4月12日、山内家初代佐助の300回忌の法要を松江市の菩提寺で営みました。江戸時代の山内家は松江の最初に開けた白濁地区で回船問屋を営んでいて、相当の資産を貯えていたようです。そのうち運搬で取扱った商品の一つであった紙の取引で商家となり、紙屋佐助と名乗りました。時代が下り、最後は第二次世界大戦で企業整備の命令で店じまいするまで、呉服反物卸商を行っていました。

山内 育二 (以九士) はその7代目の佐助で昭和11 (1936) 年に襲名しました。既に慶応義塾大学理財科に学び、学問と野球の研究で世界に目を向けていた事から、田舎の商売には関心が全くなく、商売は妻と番頭にかかせ、自分は独自の人生を始めたのです。普通の人間では考えられない趣味の生活です。

正業をもっている人から見ると、大変野放図な生活で、朝方まで本を読み、お昼頃起きてくるような生活ですから、朝食を一緒にした思い出はまったくありませんでした。何をすることも午後から始めていました。午後は殆ど外出し、趣味の友人と生活をしていたようです。恥ずかしい話ですが、お蔭で昭和16 (1941) 年12月8日の開戦のニュースも知らず、学校へ行く途中で友人に教えてもらって知るとい、だらしない両親でした。

趣味は多彩で、昆虫採集、金魚や小鳥の飼育、読書、長唄三味線、毛糸編、煎茶、そして松江中学時代から始めた野球の研究でした。

趣味が嵩じて終生続いたのが野球で、大学を卒業して、故郷に帰ってからは松江市の野球発展に務め、市営の野球場建設にとりかかり、建設中は現場監督さながらに現場に立ち、ルールブックにそって細かい指示をしていました。野球場が完成すると、慶応義塾大学の野球チームを招いたりして市民の野球の関心を高め、試合のある時は、場内アナウンサーの隣に座り、記録をつけながら、野球用語を教えていました。

昭和13 (1938) 年日本職業野球連盟から招聘されて以来野球に専念することとなりました。それを機に野球用のペンネームを「九を以て士となす」と云う意味で、育二を「以九士」にしました。野球人生については周知の通りですが、戦時中の職業野球はまだ揺籃期で、観客も少なく、今とは比べものにならないほどでした。記録員としての最初の拠点は関西でしたから、西宮の球場前の甲武館という阪急球団の選手の定宿に一間借りていました。勿論殆んど手弁当で、生活費を補うのに妻から送らせていたようです。

戦争が激しくなり、戦闘帽で野球をしたり、勤労働員で球場で木製飛行機を作ったりしていましたが、野球が中止となり、松江で生活するようになったある日、長身の憲兵が3人サーベルではなく、重い日本刀をぶらさげて家に入って来て、憲兵隊に連行されました。家に英語の本が沢山あり、短波のラジオを聴いていると云う嫌疑だったそうです。一晩泊まらされて翌日帰宅しましたが、野球排斥の時代にはこのような仕打ちを受けたわけです。

其の他の趣味も完璧主義でした。

毛糸編は玄人はだして、野球の記録整理の間も編み棒を手放さず、沢山のセーターを編んでは皆に着せていました。

読書は、漱石、鴎外、鏡花等々初版本の全集を読んでいた。野球の旅に出る頃は探偵小説が主で、夜遅くまで布団の中で読んでいました。そのため文章には酷しく、毎年のルールブック改正の時の日本語訳には、適切な言葉を見つけるのに心を砕いていました。

(次号に続く)

野球殿堂博物館 トピックス (2019年5月~7月)

5/6 斎藤 雅樹氏 トークイベントを開催

野球殿堂博物館では、元読売巨人軍の斎藤 雅樹氏（2016年野球殿堂入り）をお迎えし、トークイベントを開催しました。

1989年に達成し、日本記録となった11試合連続完投勝利や、「国民的行事」とも言われた1994年の「10.8決戦」の思い出、引退後、巨人のコーチ、二軍監督、侍ジャパンU-23代表監督を歴任したお話など、ご自身の野球人生を語っていただきました。



斎藤氏 (右) と聞き手の工藤 三郎氏 (左)



5/11 里 綾実投手来館!

女子プロ野球・愛知ディオーネ所属の里 綾実投手が来館しました。里投手は、2018年に開催された第8回WBSC女子野球ワールドカップで、日本の大会6連覇に貢献し、3大会連続のMVPに選ばれており、優勝決定後の集合写真にサインを書き入れていただきました。

6/5 殿堂入り5氏が来館!



東京ドームホテルで、学生野球資格回復制度のNPBプロ研修特例の講習が開催されました。これに先立ち、受講した野球殿堂入りの方々（杉下 茂氏、野村 克也氏、福本 豊氏、堀内 恒夫氏、門田 博光氏）が来館され、当館への寄附金目録の贈呈式が行われました。

6/8 種市 篤暉投手(ロッテ) が来館!

千葉ロッテマリーンズの種市 篤暉投手が来館しました。種市投手は今年4月29日(月・祝)の平成最後の試合に先発し、プロ初勝利を挙げましたが、その試合のウイニングボールは、平成最後のウイニングボールのひとつとして、館内で展示中です。そこで、東京ドームでの試合前にご来館いただき、そのボールにサインを書き入れていただきました。



6/12 開館60周年記念日

1959年の開館からちょうど60周年を迎えた当日限定の企画として、入館料を一律60円としました。また、学芸員による展示解説を11、14時の2回実施しました。



7/7 東京六大学野球連盟 新人選手見学会開催！

東京六大学野球連盟新人合同研修会が早大で開催され、研修会終了後、野球殿堂博物館の見学会が開催されました。学生の皆さんは、東京六大学の関係者の展示などに見入って、熱心に見学されていました。

7月 大阪ガス、JR東日本東北、JR東日本野球部来館！

7月9日、第90回都市対抗野球大会に出場する大阪ガス硬式野球部が来館し、館内を見学されました。大阪ガスは、昨年の第89回大会で優勝しており、ユニホームとメンバーのサイン色紙を企画展「都市対抗野球 90回のおゆみ」(会期～7/25)で展示していました。



また、会期中、JR東日本東北野球部、JR東日本野球部のご一行にもご見学いただきました。



7/12 権藤 博氏 来館！

東京ドームでの「マイナビオールスターゲーム2019」第1戦試合開始前に行われた2019年野球殿堂入り表彰式に先立ち、権藤 博氏が来館されました。



こんにちは図書室です



図書室の移り変わり その2

私が博物館に就職したのは、1978年でした。当時、主事（現在の館長）と職員は図書室で仕事をしていました。まん中に仕切りがついた閲覧机を、半分は職員が仕事をする場所、半分は閲覧者用のスペースとして使っていました。4人も入れば満杯の状態、年間の利用者も400人に満たない図書室でした。

蔵書は図書室だけでは収まらず、館内の四隅にあった会議室、機械室、電気室にも書架や物入れを設置し、配架するような状態でした。そこには原紙のまま製本した報知新聞など大型の資料や、山岳や探検などの利用頻度が低い資料を入れていました。

資料の収集では、1981年から12球団のファンブック・イヤーズブックとメディアガイドをすべて集めるようにしました。1985年には、ある雑誌に掲載された「都道府県高野連史を紹介」をきっかけに、連盟史を刊行している連盟に資料寄贈の依頼状を送り、積極的に非売品の資料を集め始めました。また、2008年ころからは、大学野球の春季・秋季のリーグ戦パンフレットを、各連盟に依頼し収集しています。これらの資料は、図書室の特色となっており、当館ホームページに所蔵リストを公開しています。

図書室にいらっしゃる方は、一般の閲覧者や球団や各連盟、協会の関係者まで、さまざまです。当時の主事であった大野 純二氏は、球界に携っていたので球界関係者がよくいらっしゃいました。戦前の阪急（現・オリックス）の選手だった山田 伝氏、大正時代、早稲田の内野手として活躍した井上 敏慧氏や外野手の河合 君次氏など、プロ、アマを問わずさまざまな方が訪れました。中でも、千葉 茂さんは、1982年から週刊ベースボールに「猛牛おじさんのめもりートーク」という連載を執筆していた関係で、週に2、3日は通っていらっしゃいました。内容は、「あまり有名ではないが、キラリと光るものを持っていた選手に脚光を当てる」というものでした。毎週、〇〇選手について何かないか？と調べにいらしてました。当時の大野主事は、自分で作ったノートを出し、その選手ならこの雑誌に載っていると、千葉さんに資料を出していました。大野主事がいない時に千葉さんがいらっしゃると、リクエストに応えられず大変困りました。この時に、本や雑誌が並んでいるだけでは、どこに何が書いてあるかわからない。それをどうしたら活用できるかを考え、野球界の出来事や、選手についてすぐに対応できるように、雑誌の抄録を作成しました。

千葉さんは来館の際には、ご自分がお好きな菓子を買ってきて下さいました。それをいただきながら、千葉さんの現役時代のこと、選手のこと、野球界の出来事などのお話をお聞きました。特に印象深いのは、1996年夏の甲子園大会での熊本工業対松山商業の決勝戦です。この試合を千葉さんは川上 哲治さんといっしょにご覧になり、10回裏熊本一死満塁での「奇跡のバックホーム」の瞬間、千葉さんは「これが伝統や！」と叫んだ、というお話を伺いました。現役時代はライバルといわれたお二人が、わざわざこの試合を見るために会い、それぞれの出身校を必死に応援している姿は、本当に野球が好きなのだなと思いました。

また、島 秀之助さんは、フラッと立寄られ、ご自分の現役時代、審判時代のお話をされていました。洲崎球場で、金鯱軍の外野手だった島さんが外野の守備についていた時に、後ろからひたひたと海水が浸水してきて、あっという間にグラウンド全面が水浸しになったお話とか、私たちにとっては活字でしか知りようがないことを、当事者である方にお聞きできたことは、大変貴重な経験になりました。

図書室は、どなたでもご利用できます。この選手のことを知りたい、この選手の記事はないかなど、ご相談に応じますので、ぜひご来館下さい。

司書 小川 晶子

もの 知ってほしいこんな資料 (92)

川上 哲治選手、藤村 富美男選手らのサイン入りバット

昨年、日本ビクターで社長を務めた北野 善朗^{よしろう}氏のご子息・北野 善一^{よしかず}氏より、バットが寄贈されました。このバットは、善一氏が巨人ファンだと知った、日本ビクター所属で、「野球小僧」をはじめ、「南海ホークスの歌」「燃えるホームラン王」など野球に関する歌を数多く歌唱し、自身も野球好きで知られた、歌手・灰田 勝彦氏が、幼少期の善一氏にプレゼントしたもので、1950年代の選手たちのサインが入っています。



このバットには、川上 哲治選手(写真左)、別所 毅彦選手、南村 侑広選手(写真右)、廣岡 達朗選手(以上、読売ジャイアンツ)、藤村 富美男選手(大阪タイガース 写真中)、宇野 光雄選手(国鉄スワローズ)らのサインが書かれており、選手たちの顔ぶれと、南村選手が名前を「不可止」から「侑広」へ変更したのが1954年であることから、1954年のオールスター・ゲーム出場選手によるものではないかと推測されます。

1954年のオールスター・ゲームは、セ・リーグは水原 茂監督(読売ジャイアンツ)、パ・リーグは山本 一人監督(南海ホークス)の指揮のもと、開催されました。第1戦は7月3日に西宮球場で行われ、パ・リーグが5-2でセ・リーグを破りました。この試合では、藤村 富美男選手、山内 和弘選手(毎日オリオンズ)、中西 太選手(西鉄ライオンズ)が本塁打を放っています。また、第2戦は翌7月4日に後楽園球場で行われ、パ・リーグが延長10回に山内選手がサヨナラ打を放ち、2-1でセ・リーグを破りました。こうして、パ・リーグの連勝で、1954年のオールスター・ゲームは幕を閉じました。

このサイン入りバットから、当時第一線で活躍していた選手たちの活躍ぶりが蘇ってきます。

学芸員 井上 裕太

博物館からのお知らせ

▶ 理事会

- ・ 5月16日
- 議題 1. 平成30年度事業報告・決算報告・監査報告の承認
- 2. 「図書室規則」及び「図書室利用細則」制定の承認
- 3. 評議員選定委員会委員交代の承認
- 4. 会議日程等の承認
- 報告 1. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について
- 2. 特別表彰研究会委員について
- 3. 職員の異動について
- 4. その他

・ 6月3日

- 議題 1. 理事長の選定
- 2. 業務執行理事の選定
- 3. 新評議員候補者の承認
- 4. 次回理事会について

▶ 評議員会

- ・ 6月3日
- 議題 1. 平成30年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認
- 2. 定款変更の承認
- 3. 理事及び監事の選任について
- 報告 1. 2019年度事業計画及び収支予算について
- 2. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について
- 3. 特別表彰研究会について
- 4. 職員採用並びに人事報告

以上

場 所 東京ドーム21ゲート右
開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時(入館は閉館の30分前まで)
 10月1日～2月末日 AM10時～PM5時
入館料 大 人 600円(500円) } ()は
 高・大学生 400円 } ()は
 小・中学生 200円(150円) } 20名以上の団体
 65歳以上 400円
休館日 月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館)
 年末・年始(12月29日～1月1日)

《8月・9月・10月の休館日》
 9月 2日・9日・30日(9月1日まで休館日はありません)
 10月 7日・21日・28日

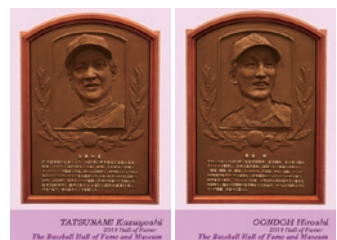
▶ 販売

- 野球守2019 紺発売!
 販売価格: 800円(税込)
 以前よりご好評いただいております野球守に、新しく紺色が加わりました!



● ポストカード

- 販売価格: 100円(税込)
 今年殿堂入りされました、立浪 和義氏(左)、権藤 博氏(右)のポストカードが新しく加わりました。ご来館の記念に、ぜひお求めください。



● 第101回全国高校野球選手権大会グッズ

今年で101回目を迎えた夏の甲子園のグッズを、当館でも販売しております。公式グッズで、高校野球を熱く応援してみませんか。グッズの詳細については、当館ホームページをご覧ください。

マフラータオル(大会名入り)	¥1,500	クールタオル	¥1,500	
マフラータオル(水玉模様)	¥1,500	3色ボールペン	¥500	
ハンカチタオル	¥600	ステンレスボトル	¥3,000	
		※容量は500ml	大会記念球	¥3,000

● 編集後記 今年も小学生を対象に「野球で自由研究!」を行っています。このイベントを通じて、多くの子供たちに野球の魅力や楽しさを伝えていきたいと思っております。

野球殿堂博物館 Newsletter 第29巻 第2号

2019年8月5日発行(年4回発行)
 編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
 (旧・財団法人 野球体育博物館)
 〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
 Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

退任のご挨拶

前館長 廣瀬 信一

2011年2月1日、佐藤 宏館長の急逝に伴いプロ野球のキャンプインと同時に、(株)東京ドームから着任いたしました。今まで、民間での勤務経験しかありませんでしたので、財団法人としての特殊性や博物館の雰囲気、当初は戸惑いがありました。その矢先、3月11日に東日本大震災が起きました。来館者の安全と展示品等の確認後、近くのコンビニで水と食料を確保しました。やはり、その日は交通がストップし、数名の職員が帰宅困難となり当館に泊まることになりましたが、食料等をいち早く確保したお陰で、無事に夜を過ごすことができ、安堵いたしました。震災による被害状況が拡大する中、当館は展示ケース内のバットが少しズレただけで、他は全く異常なく、改めて東京ドームの安全性を強く認識いたしました。



2013年4月1日、「財団法人野球体育博物館」は「公益財団法人野球殿堂博物館」として新たな第一歩をスタートいたしました。着任時に課せられた大きな使命が、「公益財団法人」の認定取得で、かつ取得期限が13年の11月末というかなり厳しいものでした。これは、博物館の将来に関わる大変重要な課題で、私の前に大きな壁として立ちはだかりました。取得に当たっては、弁護士等に相談する費用がないため、館内に設置した対策プロジェクトチームが中心となり、関係省庁に何回も面談に伺い、またセミナーに参加して情報を収集するなど対応いたしました。最終的には、昔の電話帳1冊に匹敵する膨大な資料を作成し、内閣府に認定の申請をいたしました。2012年11月2日付で、内閣府の公益認定等委員会から認定の答申をいただいたときは、本当に嬉しく使命を果たせホッとしました。また、同時に加藤 良三理事長(当時)と相談して、名称も「体育」から当館の中心的事業の「殿堂」に変更いたしました。

次に、殿堂について少し触れさせていただきます。私の在任期間に殿堂入りをされた方は、競技者表彰、特別表彰合わせて33名いらっしゃいます。60年間で204名の方が殿堂入りをされていますので、その内の約20%弱の方々の殿堂入りに携わることができました。その間に「野球殿堂」の認知度も高まってまいりました。

殿堂入りの方々との懐かしい思い出はたくさんあり、館長として素晴らしい経験をさせていただきました。そして、何と言っても、殿堂入りをされた方々をはじめとする野球界のスーパーstar、各連盟、球団他野球界の皆様とお知り合いになり、いろいろなお話を伺えたことは、私の一生の財産となりました。今後は、博物館の個人維持会員として、陰ながら応援させていただきます。

平成から令和、そして博物館設立60周年の記念すべき年に、無事に任期満了で退任できたことは、偏に関係各位のご協力、ご支援の賜と深く感謝申し上げます。長い間、本当に有難うございました。

新任のご挨拶

館長 庄司 正信

本年6月に当館の館長に就任いたしました。開館60周年という記念すべき年に館長の大役をおおせつかり、大変光栄に感じるとともに、身の引き締まる思いです。

さて先日、殿堂入りされた方のご家族がいらした際に「ここは私のセカンドホーム」とのありがたいお言葉をいただきました。私は、この野球殿堂博物館が、殿堂入りされた方々、そしてそのご家族、野球関係者各位、維持会員の方々にとって、いつでも気軽に立ち寄れる場所であって欲しいと考えています。

また、野球ファンにとっては、深く野球が楽しめる、そして未来の野球ファンにとっては、野球の魅力を知る場所になればと思います。

当館のミッションである、「つなげる」「ひろげる」「たたえる」を職員と共有しながら、野球殿堂博物館がより素晴らしいものになるよう努力いたしますので、野球関係者皆様のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

